

平成 30 年度 第 3 四半期

中小企業景況調査報告書

平成 30 年 10 ～ 12 月期 実績
平成 31 年 1 ～ 3 月期 見通し
始良市商工会
(平成 31 年 1 月発行)

この調査は、始良市の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を収集して実施しているものです。

























この報告書の中で、用いられている D・I 指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好 調 +29.9～ +10.0	 まあまま +9.9～ ▲9.9	 不 振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	--	---	--	--

1. 調査対象期間 平成 30 年 10～12 月期を対象とし、調査時点は平成 30 年 12 月 17 日とした。
平成 31 年 1～3 月期は予測値となる。
2. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
3. 調査対象商工会 始良市商工会
4. 回答企業 対象企業 30 企業（※始良市 30 企業を基に指数を表示してあり、あくまでも参考指数と理解下さい。）
製造業：7 企業 建設業：7 企業 小売業：8 企業 サービス業：8 企業

県内産業別業況 DI

		製 造 業	建 設 業	小 売 業	サ ー ビ ス 業
対前年 同比	29 年 10 月～12 月期	 33.3	 50.0	 ▲50.0	 ▲50.0
	30 年 1 月～3 月期	 0.0	 0.0	 ▲75.0	 ▲33.3
	30 年 4 月～6 月期	 ▲33.3	 0.0	 ▲50.0	 16.6
	30 年 7 月～9 月期	 14.3	 14.3	 ▲25.0	 12.5
	30 年 10 月～12 月	 ▲14.3	 0.0	 ▲75.0	 0.0
	来期見通し(1～3 月期)	 ▲28.6	 0.0	 ▲75.0	 0.0

総 合（業況）

前年同期（平成 29 年 10 月～12 月期）と比較した今期（平成 30 年 10 月～12 月期）の業況は、製造業▲14.3(前年同期 47.6 悪化)、建設業 0.0(前年同期 50.0 ポイント悪化)、小売業▲75.0(前年同期 25.0 ポイント悪化)、サービス業 0.0(前年同期 50.0 ポイント改善)となった。今期の業況は、前年同期と比較して、サービス業で改善を示しているものの、製造業、小売業、建設業は悪化している。特に建設業に関しては、前年同期は好調であったが、今年に入りやや翳りが見え始めている。

来期（平成31年1月～3月期）の見通しとしては、今期と比較しても全ての業種において大きな変化は無く、仕入や材料価格の上昇、人手不足などにより厳しい状況が続くものと窺える。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 7企業

調査対象企業内訳：食料品(2)，窯業(1)，衣類(1)，家具(1)，印刷(1)，ガラス製品(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	景気	値	景気	値	景気	値	景気	値
29年10月～12月期		66.6		0.0		▲33.3		33.3
30年1月～3月期		▲33.3		▲33.3		▲33.3		0.0
30年4月～6月期		▲33.3		▲33.3		0.0		▲33.3
30年7月～9月期		14.3		0.0		14.3		14.3
30年10月～12月		▲28.6		▲28.6		▲14.3		▲14.3
来期見通し(1～3月期)		▲28.6		▲14.3		▲28.6		▲28.6

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・特になし

経営上の問題点

- ・生産設備の不足・老朽化、原材料価格の上昇、原材料不足、製品ニーズの変化への対応が上位を占め、需要の停滞、熟練技術者の確保難、従業員の確保難、取引条件の悪化を問題としている企業もある。

【建設業】 有効回答数 7企業

調査対象企業内訳：総合工事業(2)，設備工事業(1)，職別工事業(4)

	完成工事額		採算		資金繰り		業況	
	景気	値	景気	値	景気	値	景気	値
29年10月～12月期		0.0		50.0		0.0		50.0
30年1月～3月期		▲50.0		0.0		0.0		0.0
30年4月～6月期		0.0		0.0		0.0		0.0
30年7月～9月期		▲28.6		14.3		14.3		14.3
30年10月～12月		▲14.3		0.0		14.3		0.0
来期見通し(1～3月期)		▲28.6		0.0		0.0		0.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・特になし

経営上の問題点

- ・従業員の確保難を挙げる企業が特に多い。官公需要の停滞、新規参入業者の増加が上位を占め、材料価格の上昇、人件費の増加、請負単価の低下・上昇難、熟練技術者の確保難を問題としている企業もある。

【小売業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(4)，衣服(1)，各種商品(1)，石油(1)，その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	天気	▲	天気	▲	天気	▲	天気	▲
29年10月～12月期		▲75.0		▲50.0		▲50.0		▲50.0
30年1月～3月期		▲50.0		▲75.0		▲50.0		▲75.0
30年4月～6月期		▲50.0		▲75.0		▲75.0		▲50.0
30年7月～9月期		▲25.0		▲25.0		▲12.5		▲25.0
30年10月～12月		▲37.5		▲25.0		▲12.5		▲37.5
来期見通し(1～3月期)		▲37.5		▲37.5		▲25.0		▲37.5

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・今期は、店舗整理も含めて店舗改装を10月中旬に行ったが、今のところ売上に影響はでていない。過もなく不過もないといった状況だ。年末に向けて期待している。
- ・大型店の進出により、お客様の流れが変化しているのではないかと。

経営上の問題点

- ・大型店・中型店の進出による競争の激化が大きな問題となっている。また、仕入単価の上昇、購買力の他地域への流出、販売単価の低下・上昇難が上位を占め、同業者の進出、消費者ニーズの変化への対応、店舗の狭隘・老朽化、人件費以外の経費の増加、代金回収の悪化、事業資金の借入難を問題としている企業もある。

【サービス業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：洗濯業(2)・理美容業(3)，飲食店(2)，その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	天気	▲	天気	▲	天気	▲	天気	▲
29年10月～12月期		▲16.6		▲50.0		▲50.0		▲50.0
30年1月～3月期		▲33.3		▲66.6		▲33.3		▲33.3
30年4月～6月期		16.6		▲16.6		0.0		16.6
30年7月～9月期		▲25.0		▲12.5		12.5		12.5
30年10月～12月		0.0		▲12.5		0.0		0.0
来期見通し(1～3月期)		▲12.5		▲25.0		12.5		0.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・忘年会シーズンに入り、売上は上昇するのだが、それに対応する人員が不足しており、サービスの質の低下を危惧している。

経営上の問題点

- ・店舗施設の狭隘・老朽化、新規参入業者の増加、利用料金の低下・上昇難、人件費の増加が上位を占め、利用者ニーズの変化への対応、人件費以外の経費の増加、材料等仕入単価の上昇、従業員の確保難、需要の停滞、熟練技術者の確保難を問題としている企業もある。

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかな回復を続けている。
すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、底堅く推移している。観光は、堅調さを増している。住宅投資は、貸家を中心に弱含んで推移している。公共投資は、高水準で推移している。生産は、持ち直している。
企業部門の動向を短観(12月<鹿児島・宮崎両県集計分>)でみると、景況感は、良好な状態を維持している。設備投資は、高水準で推移している。また、人手不足感は、強い状況が続いている。
こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は改善している。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額と乗用車新車登録台数(含む軽自動車)は、前年を上回った。
家電販売額は、前年を下回った。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を上回って推移している。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を上回った。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、貸家を中心に前年を下回った。

5. 生産

鉱工業生産指数(季節調整済)は、電子部品・デバイス、食料品を中心に前月を下回った。

6. 雇用環境

有効求人倍率(季節調整済)は、上昇基調をたどっている。
現金給与総額は、前年を下回って推移している。
常用労働者数は、前年を上回って推移している。

7. 物価

消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)は、前年を上回って推移している。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。
貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。
企業倒産件数は、低水準で推移している。

以上